

第 25 回テーマ

「トリプルアクセル」を目指せる世の中に！

先日、バンクーバー冬季オリンピックが終了したが、時間が経過しても話題の中心はやはりフィギュアスケート浅田真央選手の銀メダルの話。特に経営者の方は「銀メダルなのに悔し涙を流す姿には感動した」という声が圧倒的だ。頂点を目指す強い意志と勝負にこだわる執念が自分の事のように感じるのであろう。そして、また、自らを奮い立たせる原動力となったに違いない。

フィギュアスケートの事は良くわからないが、スポーツの世界でもビジネスの世界でもとにかく「勝敗」は決する。でも単純に「勝てば OK、負ければ NG」とか、実力や運とか、そういった問題だけではない。ケースにもよるが、そこには試合や勝敗を超えた「こだわり」も持ち合わせているケースもあるのだ。まさに浅田選手の戦いぶりは、それを象徴するようなものであった。

但し、残念ながら、日本の社会は「敗者」に厳しい。特にビジネスの世界では一度失敗してしまえば、立ち直るための社会整備が欧米などと比較し整備し切れていないと思う。セーフティーネットについては議論されているものの、負けても再びチャレンジできるような支援策・体制作りが必要不可欠だと思う。そういったものでなければ、新しい「勝負」は怖くてできない。ベンチャースピリットは育たず、安定・安全志向を助長していだけとなるだろう。そうした社会では革新（イノベーション）が止まったり、スピードが遅くなる。当然世界からも遅れを取るだろうし、右肩上がりの成長もないだろう。価値観の問題もあるが、個人的には結果、個人の成長...人間の成長も止まってしまうのではないかと少し危機感を覚えるし、次の社会にどんなバトンを渡すのか？と考えてしまう。

浅田真央選手はトリプルアクセルという技にこだわった。点数が上がらなくても、高い技術にこだわり理想を追い求めて最高の演技を目指した。試合には負けたが、心意気は勝ったと誰もが称賛するだろう。そして経営者ならば、自分とそれをオーバーラップし、きっと試合にも勝負にも「勝つために」努力していこう、と勇気づけられたに違いない。

ぜひ、政府には失敗しても再チャレンジできるようなセーフティーネットを早急に構築してもらいたい。企業には、業績評価だけでなくそういった「心意気」も、もっと評価して欲しい。理想論かも知れないが、頑張った人が試合に負けても再び頑張れる...そんな世の中を作るべきだ。